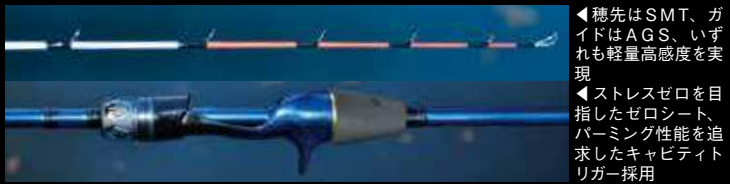


# マゴチ竿、ここに極まれり 極鋭マゴチ

●生きエビの動きも伝える高感度、違和感を与えない穂先のしなやかさ、マゴチの口を貫くフッキングパワー、強い引きをいやすバットパワー、これらマゴチを釣るための要素をとことん追求すべく実釣テストを繰り返した結果、誕生したのが「極鋭マゴチ」だ。感性領域設計システムESS、軽量、高感度の「SMT」&「AGS」、コントロール性を生み出すX45、存在すら感じさせないゼロシート、パワーロスをなくすVジョイントなどのダイワテクノロジーを満載。何より実践で培ったマゴチ調子、216センチの全長とバットエンドの絶妙な長さなど、マゴチに必要なすべてのエッセンスを高次元で融合したマニア待望の竿となっている。



◀穂先はSMT、ガイドはAGS、いずれも軽量高感度を実現  
◀ストレスゼロを目指したゼロシート、パーミング性能を追求したキャビティリガー採用

アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	適合クラブ サイズ	カーボン 有率(%)	メーカー希望 本体価格(円)
216	2.16	2	113	79	0.7/9.8	10-20	SSS	98	54,800



▲「食わせるしなやかさも持ち合わせた調子です」と田淵さん



▲富士村さんの1本目を船長がすかさずタモ入れ



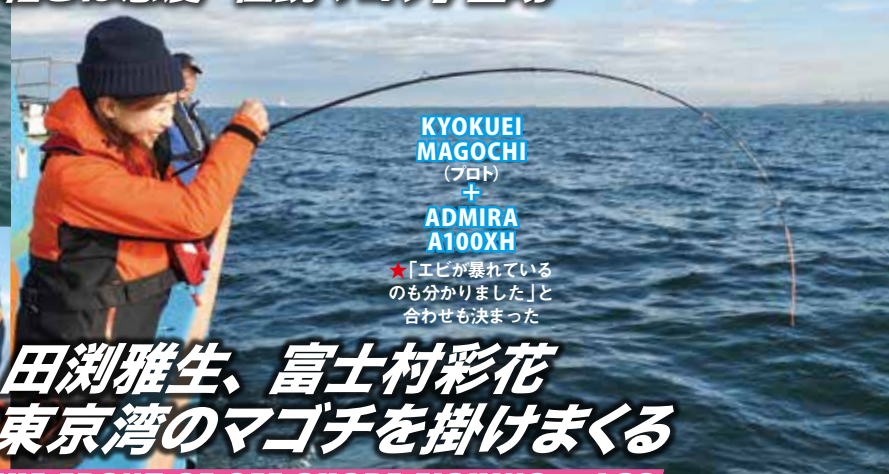
★「マゴチマニアに納得いただける竿です」と田淵雅生さん



KYOKUEI MAGOCHI + BASARA IC 150

★マゴチ釣りに必要な感度、操作性、パワーなどを徹底追求した竿だ

お待たせ、マニア待望の1本  
軽さは感度「極鋭マゴチ」登場



KYOKUEI MAGOCHI (プロト) + ADMIRA A100XH

★「エビが暴れているのも分かりました」と合わせも決まった

田淵雅生、富士村彩花  
東京湾のマゴチを掛けまくる

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.82

# マゴチ最前線

at 東京湾奥金沢八景出船

◎まずは富津沖の水深15メートル前後からスタート



## ADMIRA A 100XH

◀富士村さんはアドミラA100XH。フルメタルハウジングで剛性が高く、軽量コンパクトでマゴチにはピッタリ

## BASARA IC 150

▼田淵さんはバサラIC150。ハイバードライブデザインで巻き上げはとにかく滑らか



◀道糸はUVFPEデュラセンサー-X8+S12の2号を使用

▶ハリスはDフロン船ハリス6号

「わすかなアタリをとらえる柔軟な穂先にAGSとSMTの感度、フッキングが決まる穂持の強さ、大型にも振り回されないバットパワー、いずれも高次元で実現した竿です」と言いながら同サイズをタモに収める。

村さんだった。合わせもバツチリ決まり、40センチ弱の1本目を釣り上げる。「こんな軽いマゴチ竿、初めてです。エビが暴れるのも分かりましたし、小さな前アタリもしっかり取れました」と満悦。渡辺船長もホッとひと息の表情だ。続けて竿を曲げたのは田淵さん。食い込みにはやや時間がかかったが、スナナリ合わせも決まって巻き上げに入る。「わすかなアタリをとらえる柔軟な穂先にAGSとSMTの感度、フッキングが決まる穂持の強さ、大型にも振り回されないバットパワー、いずれも高次元で実現した竿です」と言いながら同サイズをタモに収める。



▲中盤はダブルヒットもある釣れっぷり



★「こんな軽いマゴチ竿は初めて」とマゴチ経験の浅い富士村さんがさっそく船中1本目

◎マゴチは東京湾伝統の釣り物、数少ない大物釣りの一つでもある。かつては春から夏の季節限定魚ではあったが、現在は周年の釣り物となり、マゴチマニアにとっては手を休める間もないほど。そんな方に朗報、ダイワの極鋭シリーズにマゴチ専用竿が登場したのだ。

「いよいよ『極鋭マゴチ』の登場です。マニアの願いを実現する1本、自信を持ってすすめる竿です」と田淵雅生さん。聞けば究極のマゴチ竿を出すため、船長やマゴチマニアの助言を得つつテストを繰り返して、ようやく発売にこぎ着けた竿なのだという。

今回、この新製品を持参して乗船したのは、マゴチマニアならだれでも知っている東京湾奥金沢八景の一之瀬丸。釣らせる船長としても知られる渡辺直人さんのマゴチ船を仕立てての釣行である。

同行はダイワワイールドテストター新人、富士村彩花さん。ルーアーマゴチの経験は豊富だが、エサ釣りの経験は少ない。「エビエサのマゴチは竿に頼る部分が大きいと聞いています。初心者にも釣れる竿なんですかね」と富士村さん。

「大丈夫、絶対釣れますから」と田淵さんがハッキリ答えるからには相当の自信作なのだろう。7時ごろ出船し、まずは富津沖の水深15メートル前後から釣り開始となる。

冬期のマゴチは一年の中でももっとも活性の低い時期、船長はこまめに移動しながらポイントを探っていく。30分ほどして、まずアタリをとらえたのが富士

## 動画連動!



★当日の動画はダイワ「船最前線」よりご覧になれます。

この釣り場で仲よく2本ずつ釣ったところで船長から、「良型がほしいですね、八景沖へ移動しましょう」と着いた先は水深25メートル前後のポイント、マゴチにしては深場である。ここでは田淵さんが一番のアタリをとらえる。「この竿は脇ばさみしやすい竿尻の長さも自慢です。合わせやすく、巻き上げも楽なんです」と言いながら45センチ級の中型を取り込んだ。

「あとはサイズアップを願うだけです」と言っていた富士村さんに、しばらくしてコンコンという教科書どおりのアタリ。これまでにない引き込みを見せて、当日最大の50センチアップを釣り上げた。

以後は各自が1本ずつ釣り上げ、14時ごろに納竿となった。「どうです、言ったとおり釣れたでしょう」

「こんなに楽しいマゴチ釣りは初めてです。やっぱり竿のおかげですね」と納得の表情で釣り場をあとにする2人だった。